

吹きガラス作家 安土草多

高山市内の丘陵地。その雑木林の中に安土草多さんの工房はある。耐火レンガを積み自作した窯の中が赤々と燃えている。「炉から出した時のオレンジに発光するガラスが美しくて」。父でガラス作家の忠久さんに製法を教わり、ガラスを吹き始めて14年。何度見てもそう感じると笑う。

端正なフォルムと同時にあるのが、炎とガラスが生み出す、細やかな表面の揺らぎ、緩やかな歪み。ガラス作りが始まると工房の空気が変わった。時間にして小さいものでわずか6分。吹き竿で炉から光るガラス玉を取り、回しながら吹く。鉄の型へと吹き込み、すうっと抜くと、まだ一部は光り、まるで生まれたばかりのような純粹さを持つ原型が現れる。焼き戻しの炉で形を整え、洋バシで口を広げて仕上げる。体に染み付いた、なめらかな動き。初めのガラ

スの勢いを留めるため、各工程は1回のみと決めている。驚くことに温度計や定規は使わない。窯の炎を読み、ハサミが入りやすい箇所を切って高さとし、飲み口は力を入れずに心地よい感覚で広がる範囲に。目の前のガラスの意思に添う。20数個の型で200種類以上もの作品を作る。「いつも販売店や料理店の方の言葉を思い浮かべて模索しています。自分ではどの形も好きなんです」。安土さんの作品は、ものに真摯に向き合う人たちと語らいの中で答えが見出

され、生まれていく。4年前に料理店の大将に頼まれたハイボールグラスは、やつと姿が見えてきた。今、考えていることがある。「素早く大量に作り、作業を簡略化していった果てに、美しいものができる気がして。実験中です」。手間を省き生まれてくる統一感と、意図せずに現れる各個体の姿形の面白さ。長く暮らしに根付き、愛される、普遍的なものには、それではないか。「二代でどこまでできるかなあ。分らないから楽しみですね」。この先を思い、にこやかに笑った。



1.



2.

Azuchi
Sota

3.



5.



6.

1. 光によって揺らぎの美しさが際立つ照明。左から八角細筒瓶クラック／15,120円、角球クラック／17,200円、八角瓶／14,040円（すべて税込）
2. 平成14年に自身で作った窯。温度計はないが恐らく1,200～1,300℃だという。「吹いてるときや型から抜いたときの微妙な感覚が気持ちよくて好きですね」
3. 4. 工房から車で約20分の場所にある民芸の器の店「やわい屋」。朝倉圭一さん、佳子さん夫妻は移築した築150年の民家に、しっかり根を下ろして暮らし、その延長線上に店を開いている。安土さんの作品を日本一多く扱う。安土さんが信頼を寄せる配り手の一人。「日本のかつての美しい暮らしを知ってもらいたい」と圭一さん
5. 同じガラスでも、大きさや歪みなど、すべてに個性がある。ピアグラス大／3,300円（税込）
6. 型に入れて温度が下がったガラスを、再度炉に入れて、形を整える

岐阜の
ものと
暮らす。

心を込めて、大切に作られたものは
使い心地も、表情も、何かが違う。
それが岐阜生まれなら、一層うれしい。

日常に静かに収まる美しさと
存在感を併せもつガラスや照明



ゆらゆらと波打つ肌合いが美しい。「重そうに見えて、軽いものを目指しています」との言葉通り、持つと見た目に反して軽く、日常使いしやすい。花器や酒器はガラスとは異なり、すべて個性的な形に仕上げている。左から一合徳利 鳴門／4,200円、クラックコップ中／3,500円、足つき一輪／5,400円（すべて税込）

Instagram

https://instagram.com/S_AZUCHI/

販売ショップ

やわい屋

〒高山市国府町宇津江1372-2 営業 11:00～18:00 休 不定休 P あり
☎ 0577-77-9574 <https://yawaiya.amebaownd.com/>

ピネル工房

2.



3.

Fukuta
Yohei

4.



1.

1. どんな椅子が自分にしっくりくるのか、座りながら選びたい。KANAMEチェアー（栗・座編み）／43,500円、BZスツール（ナラ）／42,000円、三脚スツール（タモ）／12,000円
2. 毎月4日間、ショールーム「ピネルの家」をオープン。友人の家を訪ねたような居心地のいい空間で、家具やカトラリー、雑貨などが購入できる。もちろん、オーダーも可能だ
3. カトラリーも制作。料理ヘラ／各1,800円、豆サーバー／各3,880円、匙／各2,880円
4. 左はキリンチェアー（栗）、右はキッチンスツール（栗）。どちらもピネル工房の定番

木の個性を生かし
一つひとつ手で確かめて
作られる家具たち

故郷の安八郡神戸町に古い民家を借り、妻と幼い娘とともに暮らす福田陽平さん。ショールームを兼ねた部屋にはテーブルや椅子が、その空間に馴染むように置かれている。「僕が作るのは、ちよつと腰掛けられるスツールとか、背もたれが短い椅子とか、日常で使うことをイメージしたものが多いですね」。三本の脚がすらりと伸びたスツール。座面が緩やかに山のようなカーブを描く椅子。どれも女性が片手で持ち運べるほど軽い。

木皿や匙が並ぶ一枚板のテーブル。その木目の一部が黒く変色して緻密な模様を描いていた。「これは古いトチノキ。実は腐敗してるんですよ。でも、腐った部分もこの人しか持っていない『個性』。形のバランスがいいからテーブルにしたんです」。面白い形や癖のある木目、節、朽ちた部分さえ、木が持つ無二の個性。それをどう生かすかに、いつも思いをめぐらす。

木を見ていれば何時間でも過ごせると笑う福田さん。京都造形芸術大学を卒業後、ものを作って働いていきたいと、京都の木工工房で修業を積み、『ピネル工房』を開いた。個々の木の状態を見て、手で確かめながら、その木にとって最適な形を探り出していく作業は、時間も労力もかかる。だが、量産が優先される工場ではできないことこそ、僕がやれること。」「そうして一つひとつ作って、人の手に渡って、お金がもらえるってことは、嬉しいし楽しい。単純に」。ごくシンプルに、ごく自然な生き方を選びながら、福田さんは朗らかに木と向き合う。

KANEAKI SAKAI POTTERY

Kouno Kinako
&
Kishi Hiroko

1.



3.



1. 左から岸弘子さんと、河野季菜子さん。「プライベートでは新しいカフェや可愛いショップを巡るのも好きです」と話す
2. 使いやすさを追求した安定感のあるサイズと形に、色使いで遊び心をプラスした岸さんの作品。カシス、チタン、アッシュの3色展開。miranda プレートS／1,500円～
3. 「よどみなく、ひっかかりのない美しさ。でも手仕事じゃないと出せないフォルム」が河野さんの作風。パールブルー、アイボリー、コバルトの3色。flat 5 プレート／1,200円～
4. 河野さん作の箸置き。和菓子のような見た目は食卓でも映える。箸置きセット／2,500円

伝統と若き感性が生む
新しい美濃焼を

1300年の歴史を持つ『美濃焼』。土岐市の『金秋酒井製陶所』は、明治の創業以来、型で成形する実用性の高い陶磁器を生産してきた。かねてから美濃焼を守るためには若い世代の育成が重要と考えていた社長の酒井教雄さん。その求人に応募したのが京都市立芸術大学出身の河野季菜子さんだった。

翌年には同校出身の岸弘子さんが入社。形の均一さ、軽さなど、歴史ある製陶技術に2人の豊かな感性を併せた新ブランド『KANEAKI SAKAI POTTERY』が、平成27年に誕生する。

「毎日使いたくなる身近さと自分たちが本当に欲しいものが軸です」と2人。河野さんの作る「flat」シリーズは、ろくろ成形でありながら型もののように均整のとれた美しさと静かな色合いが特長だ。マット釉を使用し、磁器だが陶器のような柔らかなさがあり、食卓にすっと溶け込む。岸さんの「miranda」シリーズは「使って気持ちのいい皿」がテーマ。5寸や6寸の皿にケーキを盛ると小さく使いづらい。小皿を買っては使い、食欲に試作を繰り返して、しつくりきた6・5寸をSサイズに。さらに洗う時の手間を考え、高台も限りなく低くした。どんな料理も受け止める懐の広さがある。

目指すところは2人とも同じ。伝統ある窯元が守る『実用の美』を、手仕事で、時代に合う表情にすること。「SNSで私たちの器に料理を盛った写真がたくさんアップされて。ああ、使ってもらえてるって」「嬉しいよね」。新しい美濃焼が、新たな世代にやきものの魅力を伝えている。

工 房

ピネル工房

安八郡神戸町丈六道18-1 ☎ 090-3725-4957 <http://pynel-studio.com/>

ショールーム

ピネルの家

安八郡神戸町田229-1 ☎ 第2・4土日曜の11:00～17:00（他の日も事前予約で営業可）
Pあり ☎ 0584-51-2955

工 房

金秋酒井製陶所

土岐市泉町久尻1173-1 ※工場見学は休止中 <http://kaneaki.com/>

販売ショップ

テラスゲート土岐 まちゆい
tsunagu

土岐市土岐ヶ丘4-5-3 ☎ 10:00～18:00 休 無休 P 900台 ☎ 0572-53-3333

多治見市本町5-15-2 ☎ 11:00～17:00 休 火・第1日曜（月2回金曜不定休） ☎ 0572-26-8279

裏の山には木々が生い茂り、すぐそばを澄んだ小川が流れる。自然に囲まれた上田英津子さんの住まいの一角に、小さな工房がある。自然派石鹸を手作りする『アトリエキク』だ。「自然のものを使って、安心して毎日使える石鹸を」との思いを胸に、上田さんと中島しのぶさんが石鹸作りを始めたのは平成23年。いくつもの既存品の成分表を調べてみると、「意外



1.

と不要なものが多くて」。アトリエキクの石鹸の原料は、郡上の天然水と植物由来のオイル、石鹸を固形化させるための苛性ソーダのみ。混ぜた原料を型に流して固めたら、最低40日乾燥させる。昔ながらの非加熱製法で熟成させることで、保湿成分となる天然のグリセリンが発生する。昔は、肌が荒れると庭のドクダミをすりつぶして貼り付けたと祖母か

岐阜の自然から生まれた 肌と心にやさしい石鹸

Ueda Etsuko
&
Nakashima Shinobu

ら聞いていた上田さん。その知恵に倣い、石鹸に使う美容成分も自然由来のものを使う。ひるがのど採れた人参やラベンダー、不破郡で作られる蜂蜜。生まれ育った岐阜は資源の宝庫だった。「田舎の可能性ってたくさんあるんだと気付きました」と上田さんは嬉しそうに笑う。郡上市にある酒蔵で作る、花酵母の日本酒を使っ

3.



2.

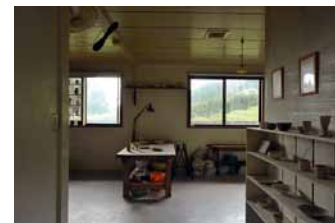
4.

1. 使用成分にちなんだ商品名も可愛い。右からsnowy サクラカイドウ 40g／430円、snowy 菊の香る散歩道 40g／700円、森の石鹸 ハニースマイルソープ、スプリングキャロット／各650円
2. 底抜けに明るい2人。企画を上田さん（右）、商品開発を中島さん（左）が担当
3. 石鹸を保存する乾燥室。2人は石鹸の様子を見ながら「みんな元気？」と我が子のように声を掛ける
4. 3歳の娘を育てる中島さん。育児や仕事で忙しい同年代の女性のために、1本で化粧水と乳液の役割を兼ね備えた商品を開発した。snowy 花酵母日本酒の保湿液／3,000円

コハク酸やリンゴ酸などの美肌成分が多く含まれ、しっとりとした使用感とほんのりと漂う日本酒の香りに癒やされる。「生産者の方に、石鹸に使わせてほしいとお願いに行くと、誰もがぜひ使ってくれ、と協力してくれて余計、いいものを作らなきゃって励みになるんです」。ふわりとやさしい泡と香りに包まれると、美しい岐阜の自然が目に見えそうだ。



1.



その器には独特な世界観が宿る。表面に入るひびのような模様の「貫入」は時に濃く、時に淡く浮かび上がる。フォルムの曲線はどこか気高く、ノスタルジックさが漂う。気負うところのない、自然な佇まいの棚橋祐介さん。高校卒業後、親戚の影響もあり、多治見工業高等学校陶磁科学芸術科へ進む。「製法は勉強しなかったけど、作りたいものはな

とらわれず、自由に。 古くて斬新な唯一の陶器

Tanahashi
Yusuke



3.



4.



2.

かったですね」。同級生が熱く語る理想の器の話聞く方が楽しくて、とくるくるした瞳で笑った。その後、瀬戸市新世紀工芸館の工房であえて一人で、土に触れて過ごす。そこで自身の欲するものに気付いた。シンプルで、モノクローム。多治見の貸し工房 studio MAYOに入ってから、友人とドラム缶で器を焼いたり、木の実に染色したり。人に恵まれ遊ぶうち

に着地点が見えてきた。「骨董は汚れているからかっこいい。初めから汚そうって」。織部焼の製法からヒントを得て、物足りなかった貫入のひびをドングリで染める「古色」を施した。「あえて想像通りにならない工程にしています」。例えば長石や灰など多種類からなる釉薬は、成分を不安定な配合にすると、時に剥がれたような表現が出る。季節で染料の染

まり具合も変化する。それが面白い。「でも今だに何作ろうか決まっていんですね」と笑う。カサカサしたものの、艶のあるもの。50個に1個ほどの割合で、釉薬や焼成温度などをテストして自身の好きな仕上がりを目指す、模索する。「いつもふわふわしてるので」。だがそれは、とらわれずに自由であるということ。内なるものから、あの無二が生まれるのだ。

1. 白色の素地に貫入が入り、染色が施されている。土も釉薬も美濃や瀬戸のものを使う。皿などは自身が作った型で、円形の器はろくろで成形する。「装飾や色は必要だと欲したときだけにつけたい」
2. シンプルでモノクロームな器は、料理や果物の風合いが際立つ。皿／2,200円、リキュールカップ／5,900円、そばちょこL／3,500円、筒瓶／7,000円、オーバルプレートM／4,600円
3. ひとたび作業を始めるとずっと集中する棚橋さん。鮮やかな手つきでカンナで高台を成形していく
4. 釉薬の成分配合を研究し、記したノートは何冊にもなる

販売ショップ

pand

岐阜市吉野町3-17 2F (P36地図C-5) 11:00～18:00 日・月曜 あり
058-263-3720 <http://pand-web.com/>

展示

平成29年夏「棚橋祐介展(仮)」(pand)

工房 ショップ

atelierKIKU

岐阜市高鷲町鮎立4156-1 水～土曜の13:00～18:00 不定休 5台
0575-72-6632 <http://www.atelierkiku.com/>

使うたびに、身に付けるたびに、ちょっぴり楽しくなる、うれしくなる。
作り手の想いを感じる形や色だったり、豊かな表情だったり。
一緒に過ごすうちに、ますます愛着がわく。そんな岐阜の作家ものを紹介します。

iwai 工房

数年前、東京で働いていた岩井香織さんは、岐阜県立森林文化アカデミーの存在を知り、突如入学を決めた。幼い頃に好きだった山が思い浮かんだからだろうか。「自分の中で眠ってた種がぽっと芽を出したみたい」。平成23年に卒業。今は森林の仕事に携わりながら、木工制作を続ける。立ち枯れた栗の木を愛おしみ、炭化した樹皮をわざと残した器。木とのめぐり合いは一期一会。じっと木の性格を読み、再び生かす。

- ▶クリボウル
(栗／オイル仕上げ) 各3,500円
▶ふたもの(ミネバリ) 3,500円
(すべて税込)

販売ショップ

AC CRAFT

住 美濃市常盤町2275-1
営 日曜の11:00～16:00(他の日も事前予約で営業可)
P 2台
☎ 0575-35-3669
http://www.accraft.com/



stoffa ストッファ

布をひも状に裂いて横糸にし、織り上げる「裂き織り」。もとは古い布を甦らせるために始まった手法だが、山本純子さんはあえて真新しい綿やリネンの布を使い、これまでの裂き織りのイメージを一新する鮮やかで深みのある色合いを表現。独特の風合いを持つバッグは、くたりとして手に馴染むが、裏地まできっちりと仕立てられていて丈夫だ。“stoffa”はイタリア語で布地のこと。手紡ぎの糸で靴下も編む。

- ▶裂き織りバッグ(赤) 12,000円
▶裂き織りバッグ(無地) 各11,000円

工 房 ショップ

住 岐阜市萱場東町5-13-1
営 月・水・金曜の13:00～17:00
P あり
☎ 090-1288-2486
http://stoffa.jp/

展 示

平成28年9月28日まで
「stoffa展」(STENPORT・P36地図C-5)



ウノ ダイサク

真鍮で作る宇野大策さんのアクセサリ。半円や三角形に切った金属板の表面を、先が丸かったり傷が付いていたりする金づちで叩き、まるで月面や鱗のような質感を出す。“余分な装飾を省いたデザイン”が信条。「アクセサリは生活の中で優先順位が低いかもしれない。だからこそ、長く使えるものを作りたいんです」。使い手や、その在り方に向き合う彼の実直さが、シンプルでありながら、凛とした強さのある作品からも感じられる。

- ▶ブローチ 4,800円
▶バングル 4,800円
▶ヘアゴム 3,800円
(すべて税込)

H P

http://unodaisaku.wix.com/unodaisaku

販売ショップ

GALLERY GECCA

住 岐阜市若竹町2-10 森ビル(P36地図A-1)
営 毎月20日～30日の11:00～18:00
P あり
☎ 058-231-6413



Handmade
Items

愛着のわく、岐阜のクラフト

GIFU
MONO

Tickle glass ティクルグラス

- ▶くすぐるハンコ
レギュラーサイズ 各13,000円～
※本体+1文字または1絵柄代含む

工 房 ショップ

住 多治見市大藪町1278-2
営 土・日曜の13:00～17:00
※ガラスのはんこ体験は要予約(月・火・土・日曜開催)
P 4台
☎ 0572-74-1072
http://tickle-glass.com/

ユーモアたっぷりのガラスのオブジェ。実は印面の文字を決められるオーダーはんこのだ。溶けたガラスを専用のピンセットなどで伸ばしたりして思いのまま成形し、表情や模様は竹串にボンドを付けて描く。真ん丸頭や耳付きの子…。どれも違う、姿形と色。一つ選んだら、苗字やニックネームを入れて、自分用にしたり、プレゼントしたり。個性豊かなはんこたちは愛らしく、ずっと側に置いておきたくなる。工房でははんこ作り体験も可能。



Mais マイス

- D.cuir ▶Oneレザーウォレット 23,760円
▶レザーキーカップ 6,480円
▶スクエアコインケース 4,320円
(すべて税込)

ショップ

Mais mino

住 美濃市相生町2249
営 金～日曜・祝日の11:00～18:00
☎ 0575-33-3984
カフェとカバン
住 岐阜市三輪宮西269 営 8:00～18:00
休 水曜 P あり ☎ 058-229-5800
http://www.mais-shop.com/

美濃市発のレザーブランド。「身近な道具こそ質や素材、作りにこだわりたい」と、牛革やヴィンテージレザーなどを使った革小物は、昔ながらの製法でハンドメイド。地元や東京を中心に全国にファンを持つ。「D.cuir」シリーズはしっかりとした風合いの一枚革の財布をはじめ、洗いデザインのコインケースなど、無駄をそぎつつも、革の味を生かした形と温もりある色が印象的。日常にするりと入り込み、育てる楽しさを味わえる。



Rogesshi ロゲッシ

- ▶ヘアピン 各500円
▶くるみボタン(ヘアゴム付) 800円～
▶ブローチ 1,000円～ (すべて税込)

ブログ

http://rogesshi.exblog.jp/

出 店

平成28年9月17・18日
「GIFUクラフトフェア」
(JR岐阜駅1F・P36地図B-6)

刺繍糸をひたすら交差させて刺していくクロスステッチが、「単純だから自分に向いているんです」と笑う山岡絹代さん。しかし、その一針一針の細かさと美しさは目がくらむほど。図案は基本のパターンから配色を変えたり、ヨーロッパの伝統的なデザインにアレンジを加えたりして、自身で考案。小さくなるみボタンの中に、限りなく多彩な世界が広がる。ブローチやヘアゴムなどにしてイベント出店でのみ販売。

